

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

高等学校助教諭（講師含む）

評価領域		着眼点
I 教科指導等	指導計画の作成・改善	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態や教科・科目等の系統性を踏まえた年間指導計画等を作成している。 授業の充実を図るため、他の教諭と連携しながら常に教材研究に努めている。 学習指導要領を踏まえ、適切な指導目標を設定している。 適切な指導計画のもと、年間を通じて計画的に授業を進めている。
	学習指導と評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した指導が行われ、学習状況の把握、支援などが適切である。 教科・科目に関する知識・技能が発揮され、生徒の理解を促進している。 生徒一人一人の学習状況を把握し、学力向上のための支援を行っている。 指導と評価の一体化が図られ、他の教諭と連携しながら学習指導の工夫・改善に努めている。
II 学年・HR経営・生徒指導等	学年・ホームルーム経営、生徒指導、進路指導、特別活動等	<ul style="list-style-type: none"> 教員間で学年運営上の課題を共有するなど、相互理解に努めている。 教育相談的な対応に心がけ、生徒理解に努めながら適切な生徒指導を行っている。 生徒の実態に応じ、他の教諭と連携しながら進路選択ができるよう適切に支援している。 学校・学年行事等を通じて、生徒の自主性・自律性を育てる指導を行っている。 家庭や地域と情報交換を行い、連携して指導している。
III その他の校務等	校務分掌等	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌の意義や自らの役割を理解し、適切な活動を展開し、責任を果たしている。 分掌等の課題について改善策を示すなど、学校運営に参画している。 保護者や地域と連携し、開かれた学校づくりを推進している。 教育公務員として、高い自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。
チームワーク行動		<ul style="list-style-type: none"> 日常的に円滑なコミュニケーションを取りながら、キャリア段階ごとに期待される行動を行っている。